

ドロップキック



特別養護老人ホーム・パール代官山
施設長 入江 祐介

新年明けましておめでとう御座います。本年も宜しくお願い致します。本年度は、新年早々エンジン全開でかつ飛ばして参ります。そこで、今回の記事は・・・。

マニアックなファンの方々（特に、闘う司法書士リアルタイガーマスク様、喜多見ホームのイケメン相談員様、いつもご愛読いただいているグリーンポート恵比寿の施設ケアマネ君）、大変長らくお待たせしました！プロレス美学・第6弾！！

今回のテーマは、「ドロップキック」です。毎度ながら、本シリーズでは、何のこっちゃ分からない記事を自由に書かせてもらいます。万人受けは期待せず、分かる人にはわかる、そんな極一部のマニアック層に向けてのメッセージです。

プロレスの世界では華やかな決め技があるのと同時に、当たり前ですが、基本的な技も多く存在します。そんな基本的な技を極める猛者も多く存在。例えば、ブレーンバスターと言えば『ディック・マードック』、バックドロップと言えば『ジャンボ鶴田』・・・。

では、ドロップキックと言えば？ そう、もうお分かりですね。『ジョージ高野』です！

元力士（四股名は高野）の経歴を持ち、恵まれた体とハーフでイケメン、抜群の運動神経、同じプロレスラーである高野俊二の実兄、初期は新日本プロレスで活躍。初代タイガーマスクの佐山聡と同期であり、ライバル視されていた前田日明にも若手時代には大きく勝ち越しており、間違いなく期待のエースでした。

初代タイガーマスクが突然の引退後、『ザ・コブラ』の名で覆面レスラーとして活躍していたことも、皆様の記憶の中に蘇るのではないのでしょうか？彼の滞空時間が長く、華麗なドロップキックは一見の価値あります。あまりの美しさに酒が進みますので、YouTube動画で検索して、是非ご覧ください。

さて、福祉・介護の業界でも、基本的な介護技術は大切です。普段当たり前のように行っている、食事介助やオムツ交換、入浴介助、シーツ交換や環境整備など。介護のプロとして、全職員が当然一定水準のレベルを求められるところです。

それでも人ですので、得手不得手はつきもの。プロレスと異なり、一つ一つの技術は決して派手な技ではなく、寧ろ地味な技の繰り返し。ですが、そんな基本的な技をもプロフェッショナルな技として極め、バックドロップならぬ『食事介助なら〇〇さん』『ご利用者個人が望む生活を実現する企画力なら〇〇さん』と誰もが口を揃え、記憶に残る、名選手を目指してみてもは如何でしょうか？

東京都高齢者施設協議会では、毎年『東京の介護ってすばらしいグランプリ』を開催しています。日頃の自施設での取り組みを発表し、介護の魅力を発信していきませんか？

<https://koureiikyo.com/>